

**【成分】** (1包 1.5g中)

成分	分量	はたらき
イソプロピルアンチピリン	150 mg	優れた解熱作用と鎮痛効果を有し、アセトアミノフェンと共に、痛みによく効きます。
アセトアミノフェン	250 mg	痛みを感じる中枢に働きかけ、痛みの伝わりをブロックするとともに、解熱作用を有します。
アリルイソプロピルアセチル尿素	60 mg	鎮静作用があり、鎮痛効果を高めるために配合されています。
無水カフェイン	50 mg	頭痛緩和作用を有します。
カンゾウ(甘草)エキス	150 mg (原生薬換算量 750mg)	胃粘膜を保護して、胃の荒れを防ぎます。

添加物としてトウモロコシデンプン、乳糖、ヒドロキシプロピルセルロース、D-マンニトール、クロスカルメロースNa、ステアリン酸Mg、セルロース、白糖、無水ケイ酸、メタケイ酸アルミン酸Mgを含有します。

**保管及び取り扱い上の注意**

- (1)直射日光のあたらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。
- (2)小児の手のとどかない所に保管してください。
- (3)他の容器に入れかえないでください。(誤用の原因になったり品質が変わる。)
- (4)使用期限を過ぎた製品は、服用しないでください。

**問い合わせ先**

- 1) 購入した薬局・薬店
- 2) 全薬工業お客様相談室  
住所: 〒112-8650 東京都文京区大塚5-6-15  
電話: 03 (3946) 3610  
受付時間: 9:00~17:00 (土・日・祝祭日を除く)



製造販売元 **全薬工業株式会社**  
東京都文京区大塚5-6-15  
<http://www.zenyaku.co.jp>

下線部: 2012年8月(使用上の注意改訂: 第8版)  
2012年4月(記載要領変更に伴う改訂: 第7版)

服用に際して、この添付文書を必ずお読みください。  
また、必要な時に読めるよう大切に保管してください。

速く治したい...

頭痛・生理痛に

**セミドン<sup>®</sup>顆粒**

解熱鎮痛薬  
第2類医薬品

①速さと効き目を考えた“速効処方”

イソプロピルアンチピリン



アセトアミノフェン



優れた解熱鎮痛効果を発揮!

②胃への負担を考えた“やさしい処方”→胃粘膜保護成分カンゾウ(甘草)エキス配合。

③錠剤の苦手な方にものみやすい顆粒タイプ。

**【使用上の注意】**



してはいけないこと



(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなる。)

1. 次の人は服用しないでください。  
(1)本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。  
(2)本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。
2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないでください。  
他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬、乗物酔い薬
3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないでください。  
(眠気等があらわれることがある。)
4. 服用前後は飲酒しないでください。
5. 長期連用しないでください。



してはいけないこと!

## 相談すること



### 1. 次の人は服用前に医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。

- (1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。
- (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
- (3) 高齢者。
- (4) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (5) 次の症状のある人。むくみ
- (6) 次の診断を受けた人。高血圧、心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍

### 2. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この添付文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。

関係部位	症状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ
消化器	吐き気・嘔吐、食欲不振
精神神経系	めまい
その他	過度の体温低下



まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
* 皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群)、 中毒性表皮壊死融解症、 急性汎発性発疹性膿疱症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ(小膿疱)が出る、全身がだるい、食欲がない等が持続したり、急激に悪化する。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。

〔次ページにつづく〕

* 腎障害	発熱、発疹、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛(節々が痛む)、下痢等があらわれる。
* 間質性肺炎	階段を上ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
偽アルドステロン症、 ミオパチー	手足のだるさ、しびれ、つっぱり感やこわばりに加えて、脱力感、筋肉痛があらわれ、徐々に強くなる。
ぜんそく	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦しい等があらわれる。

### 3. 服用後、次の症状があらわれることがあるので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。


### 4. 5～6回服用しても症状がよくならない場合は服用を中止し、この添付文書を持って医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。

#### 【効能・効果】

- 頭痛・生理痛・歯痛・咽喉痛・肩こり痛・腰痛・神経痛・関節痛・抜歯後の疼痛・耳痛・筋肉痛・打撲痛・ねんざ痛・外傷痛・骨折痛の鎮痛
- 発熱・悪寒時の解熱

#### 【用法・用量】

次の1回量を1日3回を限度とし、なるべく空腹時をさけて服用してください。服用間隔は4時間以上おいてください。

年齢	15才以上	15才未満
1回量	1包 	服用しないこと

〈用法・用量に関連する注意〉  
本剤は水又はぬるま湯で服用してください。

水

ぬるま湯

#### 服用についてのアドバイス



- ① 水又はぬるま湯で服用しましょう。  
コップ1杯(150mL程度)の水又はぬるま湯と一緒に服用しましょう。薬の成分が水で薄められ、粘膜への刺激を少なくします。
- ② 空腹時を避けて服用しましょう。  
空腹時、解熱鎮痛成分は胃を刺激することがあります。食物が胃に入っていれば、食物が胃を保護するので、解熱鎮痛成分の胃に対する刺激が少なくなります。
- ③ 頭痛の場合は、痛み始めたら早めに服用すると効果的です。